

# PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

生きるとは分かち合うこと、弱き者と

PHD LETTER  
Volume  
152  
2023.3

公益財団法人PHD協会  
2022年度会報152号

Believe in yourself.

3年ぶりに来日した研修生は無事に帰国、これからの活動へ向けて。

PHD 2022年度研修生レポート



## PHD LETTER Volume.152

## Contents

- P.2-4 2022年度研修生レポート  
 P.2 2022年度研修生 共通研修・研修旅行  
 P.3-4 2022年度研修生レポート：ブディ、アシカ  
 P.5 多文化共生インターン一年を振り返って  
 P.6 2022年度国内研修生一年を振り返って  
 日々是東奔西走  
 P.7-8 **PHD Movement** vol.35 - 分かち合い実践録 -  
 JICA草の根技術協力事業  
 「生計向上のための牛肥育に関する知識・技術の研修」レポート  
 P.9-10 短期研修生レポート  
 P.11-12 居住支援事業 報告  
 P.13 宇宙船地球号で暮らす-多文化共生してる？ -  
 退職の挨拶 居住支援担当/佐久間隆 広報・啓発担当/中島麻  
 P.14 PHD活動紹介2022年11月～2023年2月  
 P.15 PHDNews



PEACE, HEALTH&HUMAN DEVELOPMENT  
**公益財団法人PHD協会**

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和(Peace)と健康(Health)を担う人づくり(Human Development)をすすめて、共に生きる社会をめざし、1981年に今井鎮雄(初代PHD協会理事長)と共にPHD協会を設立しました。

## PHD LETTER 152号

発行：公益財団法人PHD協会  
 住所：〒653-0836 神戸市長田区  
 神楽町3-7-4  
 電話：078-414-7750  
 FAX：078-414-7611  
 E-mail：info@phd-kobe.org  
 URL：http://www.phd-kobe.org  
 郵便振替口座：公益財団法人PHD協会  
 01110-6-29688



西日本研修旅行：水俣-慰霊碑

## PHD 2022年度研修生レポート

芳田 弓生希 = 文

日本での研修を終え、アシカさん(ネパール)は3月9日に、ブディさん(インドネシア)は3月13日にそれぞれ帰国の途につきました。山あり谷ありの一年間でしたが、コロナ禍にも関わらず、研修等でお世話になった皆様、支えていただいた皆様、本当にありがとうございました。日本での学び・気づきをもとに、改めて村の課題を考え、それに対してどの様なことができるのか、それぞれ考えました。一年の研修と共に帰国後の計画をご報告させていただきます。

表紙写真/新長田商店街入口にある長田の象徴・鉄人28号モニュメント横にて。(左から、エラさん、ミヨーさん、アシカさん、ハーさん、ブディさん)

## お世話役による村の医療

## 温故知新 岩村語録 その24

「困っている人、病んでいる人、弱い人をみたら、つい手が出る口が出るという世話好きの人をネパールでは「セワキ」と呼びます」。日本語の「世話焼き」とたいへんよく似ています。(中略)私は、この生活共同体の力学こそ最も大切で、生活共同体保健医療が成功するための秘訣だと今も考えています。

引用：あなたの心の光を下さい アジア医療・平和活動の反省

中略には結核になった村人が、セワキの継続的な支えによって回復していく、というエピソードが入る。そして「病院中心の治療」、「医師が主役を演ずる医療」への反省につながる。「セワキ」と出会い、応援していくこともPHDの役割かと(さ)



## 2022年度10月～2月の共通研修

- ・浜地律知さん、渡辺裕子さん(神戸市/口腔衛生) 4回
- ・生活協同組合コープこうべ、コープ志染店、協同学苑、エコファーム(三木市/協同組合)
- ・PHD協会 芳田(神戸市/行動計画づくり)
- ・部落解放同盟兵庫県連合会(神戸市/人権)
- ・淡路島モンキーセンター  
(洲本市/残留農業、リーダーシップ)



共通研修：口腔衛生研修-村の人に伝える練習



共通研修：コープ志染店-フレンドリーバナナ



## 2022年度 研修旅行報告

## 東日本研修旅行 11月20日～11月21日

- ・東京都 全日本自動車産業労働組合総連合会、日本ユニセフ協会、ロータリー米山記念奨学会、日本労働組合総連合会

## 西日本研修旅行 1月17日～19日、2月8日～12日、2月22日～25日

- ・愛媛県 えひめグローバルネットワーク、カ石牧場、道の駅小田の郷せせらぎ、納堂邦弘さん、道の駅内子フレッシュパークからり
- ・鹿児島県 かごしま有機生産組合、地球畑
- ・熊本県 水俣市立水俣病資料館、水俣病センター相思社、ほっとはうす、きぼう・未来・水俣、国立水俣病総合研究センター
- ・福岡県 祝町小学校、アジアを考える会・北九州、北九州市環境ミュージアム
- ・大分県 別府市竹細工伝統工芸館
- ・山口県 岩国みなみワイズメンズクラブ
- ・広島県 広島平和記念資料館、一秦治さん、袋町小学校平和資料館、原爆ドーム、平和記念公園



PHD 2022年度研修生レポート

セティア ブディマン  
インドネシア /27 歳

ブディさんの村では、村で仕事をして十分な収入を得ることができないため、より良い仕事を求め都市や海外へと出て行く若者が増えているそうです。日本の過疎化が進んだ地域の現実を見て、自分の村もこのままでは若者がいなくなり、やがて村がなくなってしまうのではないかと心配になりました。

そこで帰国後は、畜産での収入を増やすことで、少しでも多くの若者が村に留まることができるように働きかけたいと考えています。牛舎の衛生管理、乾燥させた草や藁、配合飼料等について説明する際、写真を使って村人たちに説明するだけでなく、ワークショップ形式でこれまで自分たちがやってきた方法と、新しい方法とを体験して何が違って、どのような利点があるのか学べるようにする予定です。

11月～3月末の研修

- 中野宗嗣さん (丹波市春日町/サイロ)
- 木村牧場 (丹波篠山市/牛繁殖・肥育)
- 納堂邦弘さん (愛媛県喜多郡内子町/地域活性化・起業)
- 力石牧場 (愛媛県喜多郡内子町/牛肥育)
- JA愛媛たいき畜産センター (愛媛県大洲市/牛繁殖・肥育)
- 今里拓哉さん (愛媛県今治市/果樹栽培・地域活性化)

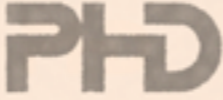
- 西播磨県民局光都農業改良普及センター (赤穂郡上郡町)
- ハイクオリティミルク農業協同組合林牧場 (佐用郡佐用町/酪農)
- 真柴三幸さん (佐用郡佐用町/牛肥育)
- 谷口牧場 (豊岡市/牛繁殖)
- 県立但馬農業高等学校 (養父市/牛肥育)
- 但馬食肉センター (朝来市/食肉)
- 県立農林水産技術総合センター (加西市/牛繁殖)
- 協同学苑 (三木市/協同組合)



「若者が村で暮らせる仕事をつくりたい」

Handwritten notes in Japanese, organized into columns. The text discusses the challenges of rural depopulation and the importance of creating jobs for young people. It mentions the need for better income and opportunities in the village to prevent youth from leaving for cities or overseas. The notes are written in a clear, legible hand.

セティアブディマン  
インドネシア



PHD 2022年度研修生レポート

アシカ チャルマカール  
ネパール /24 歳

11月～3月末の研修

- 阿弥陀小学校 (初等教育/高砂市)
- 滞在：神吉泰彦さん、道子さん
- ステップハウス(ハンディキャップケア/高砂市)
- 滞在：神吉泰彦さん、道子さん
- 三木市総合保健福祉センター (保健衛生・母子保健/三木市)
- 滞在：藤田潤一郎さん、令子さん



高砂のステップハウスにて、利用者さんに読み聞かせをするアシカさん(左端)



「栄養バランスの良い食事で子どもたちを健康に」

Handwritten notes in Japanese, organized into columns. The text discusses the importance of providing balanced nutrition to children to ensure their health and growth. It mentions the challenges of rural areas and the need for better food and healthcare services. The notes are written in a clear, legible hand.

アシカ チャルマカール  
ネパール



## PHD 2022年度 多文化共生インターン

### グエンティテウハー

家族みたいなPHD協会での多文化共生インターンシップ一年間の活動を通して、様々なことを学ぶようになりました。積極的な職員のおかげで、外国人の立場である自分ができることがあるのか分からなかったが、困窮な方々に対して役に立ちました。多国籍の人達と出会い、コミュニケーションを取り、視野が広がり、多文化の交流ができました。コロナ禍の為、現在社会では困難している人が増加してきました。未来豊かな社会を作る様に一人一人の心を同一にし、協力し合う必要がある。3月、研修生たちが帰国して、日本での学んだことや経験を活かして、自分たちの村をよくすると思います。私も大学を卒業後、2人に負けずに前向きに頑張ります。人生には失敗がないと成功にならないと、私は信じています。素敵な一年間を過ごすことができ、感謝します。ありがとうございました。



### イタンダーミョー

私はPHD協会が多文化共生インターンとして、一年間活動を通して、色々なことを経験させて頂きました。PHDと色々な会場に出席したり、食料を配ったり、翻訳したりしました。PHD協会は支援者からもらった食品やお米などを私の紹介である、ミャンマーから日本に来たばかりの留学生4人に60kg以上のお米と色々な食材とお菓子を配りました。ミャンマー人にとってお米は大切なので、たくさんもらったから嬉しそうでありたい感じでした。PHD協会であった色々なことを体験として重要にしています。その中で、特に日本で翻訳通訳の仕事を目指した私にとって、言葉使いは大切なことでした。ですから学校で知らない言葉や文法があるとその使い分けについてPHD協会の皆さんに聞いてみた上で、分かるようになりました。そのおかげで翻訳する時間も早くなって、話すのもよくなっていて感じています。そして出来事が多いPHDで学んだことを社会に出て、まだ使おうと思っています。本当に一年間大変お世話になりました。



### 結城 花菜

PHDの国内研修生として過ごした一年間、様々なことを経験させていただき、やってみたらこそ分かる学びがありました。研修生が自分の村のために研修に励む姿を見て、PHDが行っている一時的ではない人材育成がどのようなものなのか体感することができました。そして私も身の回りにあふれる課題に対して向き合っていくと力をもらいました。また、シェアハウス居住者の方との交流から、入管の収容施設のことや多文化共生について何度も考えました。彼らが直面した問題は大きく、しかし社会は無関心で難しいと感じることもありましたが、PHDの皆さんと一緒に少しでも寄り添うことができたら嬉しいです。最後に、PHDで「草の根の交流を積み上げることが、世界の平和につながる」と教えていただきました。人と人の繋がりを大切に、これからも精進してまいります。一年間本当にありがとうございました。



One year  
二〇二二年度 国内研修生 一年を振り返って

### 日々是 東奔西走

研修担当  
芳田弓生希

「挑戦の一年」

昨年3月下旬に急遽研修を担当することが決まり、不安にまみれてのスタート。コロナ禍では初めてとなる研修をうまく組めるのか、牛の繁殖・肥育現場に触れたことがない自分に研修の振り返りができるのか、研修生たちが安心して過ごせるようサポートできるのか…。最後まで不安は残りましたが、長年研修生を受け入れて頂いている指導者の皆さん、ホストファミリーの皆さんにも支えていただき、無事一年を終えることができました。本当にありがとうございます。皆さんはとても心強い存在です。意識したのは、研修の振り返りに時間をかけ、必要に応じて補足説明をし、重要な点は何度も確認すること。また、研修生たちが帰国後の行動計画を作成する際には「どのようにするのか？」を可能な限り具体的に考えること。例えば栄養バランスについて伝える際には、講義形式であるのか、ワークショップ形式であるのか。更に具



体的に何をどうやって一緒にやるのか、話しやすいグループの人数、参加者自らが気づくための質問の仕方、気づいたことをやってみようという気になる構成などを考えました。たとえ計画通りにいかなくても、仲間と計画を作り直せば良い事です。今回の行動計画を作成する経験は今後課題解決に向けた取り組みをする際にも役立つと思います。



# PHD Movement vol.35

JICA草の根技術協力事業

「生計向上のための牛肥育に関する知識・技術の研修」レポート

事務局長 坂西卓郎 = 文

- 分かち合い実践録 -



## PDM (Project Design Matrix)

1. 事業名 (事業実施期間) (Project Title/Duration)	生計向上のための牛肥育に関する知識・技術の研修
2. 事業実施団体名 (Name of Organization)	公益財団法人 PHD 協会
3. カウンターパート (Counterpart)	PHD インドネシア
4. ターゲットグループ (Target Group)	タランバ(ブンゴ地区)タベ村 (380世帯、1552人)、タラタジャラン村 (231世帯、911人)、シランジャイ村 (153世帯、671人) の住民、合計 764世帯
<b>プロジェクト要約</b> (Project Summary)	
<b>上位目標 (Overall Goal)</b>	包括的・中・長期的に期待される効果・インパクト 対象地域の貧困層が実際に牛肥育を行い、収入向上が実現される
<b>プロジェクト目標 (Project Purpose)</b>	ターゲットグループや対象社会への直接的な効果 キーファーマーが、本邦研修にて牛肥育及びその普及に必要な知識、技術、経験を得ること。そして、帰国後、対象地域におけるターゲットグループの人々の、牛の肥育に関する知識及び技術向上に取り組むこと。
<b>アウトプット (Output)</b>	活動を行うことによって生み出すべき財・サービス ① キーファーマーが牛肥育に関する知識・技術を得る ② 研修内容を紙媒体として視覚化するため、牛肥育に関するマニュアルを作成する。

## 事業の目的

PHD協会では2022年6月から2023年7月の期間で、表題の事業を実施中である。概要は表PDM (プロジェクト・デザイン・マトリックス) の通りで、要約すると「牛肥育の研修生 (PDMではキーファーマーと表現) を招聘し、その成果を持ち帰ることによって地域の農家の収入向上を図る」ということになる。

これだけであれば従来の研修と大きな違いはないが、力点としては帰国後の普及活動にも研修生と共に取り組む、という点を目指したものだ。諸事情で当会によるインドネシア現地での活動は実施が叶わなかったが、帰国後の普及を促進するために短期研修生として、タベ村経済事業総合協同組合のエラ組合長を招聘し、同じく牛肥育を専門とする研修生ブディさんと学びを深めた。その様子を報告したい。

## 牛肥育の学び

インドネシアと日本の牛肥育は違いが多々ある。よって、学びも多かったが、代表的なものとしては「牧草の乾燥」である。

生草の場合だとよく食べるが、牛の4つある胃の中で反芻されず、十分に栄養がとれない。乾燥させれば殺菌効果もある、というのだ。また乾草に加え、発酵させるサイレージについても勉強させてもらった。

他にも興味深かったのが、日本では去勢して肉の質を向上させると同時に、雄性を弱め飼養しやすくするが、イスラム教のインドネシアでは去勢はもってのほか。このことを学んだブディさんは驚きのあまり目を白黒させていた。宗教の尊重は前提なので、去勢のメリット/デメリットを学び、対応策を考えた。

## 元研修担当、納堂さんからの学び

2000年から2005年に研修担当であった納堂さんは現在、愛媛県内子町で活動している。内子町での学びは「あるもの探し」と「課題から可能性を創る」ということであった。牛肥育では「あるもの」として「牛糞」が浮上した。インドネシア現地では牛糞を十分に活用できていなかったが、内子町で牛糞を堆肥化して収益を上げている農家を訪問し、「牛糞がお金を生み出



3月1日・JICA 関西での報告の様子

谷口牧場にて



## タベ村経済事業総合協同組合

名称:KSU-ED Tabek

所在地:西スマトラ州ソラヒラングマンティ地区タベ村27372

設立の経緯:1997年3月3日、エラさんを含む地元の名士25名が農家の経済を改善する目的で設立

組合長:エラさんは地域の信任をうけ2000年から組合長を担う  
職員:管理職5名、職員10名、監査3名

組合員数:763名(農業従事者590名、仲介人150名、公務員8名、その他15名)

主たる業務:資本融資・貸付、牛肥育、さとうきび産業  
資産:1997年の約25万円が現在約9,100万円に増加

す」と学びを得た。

## 公明正大なシステムが農家を安心させる

他にも牛の競り市に参加させてもらった。約300頭の但馬牛が整然と競りにかかっていく様子には私も驚愕したが、エラさんの驚きはその比ではなかったようだ。

曰く「このシステムのすごさは売主買主どちらにも利益がある。買手が騙されることがない。インドネシアでは牛主が売ってしまえば、全責任は買手が負う。例えば病気でも文句は言えない。ゆえに常に不安が付きまとい、仲介業者の存在と利益が大きくなる。農家にはなにも残らない。この日本のシステムは最高だ。インドネシアでも導入しないとイケない」。

## 帰国後、牛肥育の普及をどのように実践するか?

エラ組合長によると主に5つあり、その中心をキーファーマーであるブディさんが担う。

### 1. 自ら実践

16頭用の牛舎があるので改築し、日本で学んだことを実践する。

### 2. 報告会の実施

協同組合職員への研修会と、約750名の組合員全体に向けた

報告会を実施する。地域内外のキーパーソンも招待する。

### 3. 組合で牛糞の堆肥化を導入、指導する

完熟堆肥の生産、指導。その後、村の主要農産物である唐辛子、赤玉ねぎ農家にプロモーションする。

### 4. 協同組合の2Fに「道の駅」を作る

仲介業者を排除し、農家が直接価格を設定し、利益を得られる場をつくる。

### 5. 協同組合主導の牛肥育システムの再開

組合の資本と日本での学びを活かして、困窮農家に牛を貸与し、育成を指導する。利益を通常よりよい割合(農家70%、組合30%)に設定して農家の収入向上を図る。

限られた誌面では伝えきれないほど大きな手ごたえのあった研修であった。エラさんも「人生でこんな経験は二度とできないでしょう。お金があってもできない。この経験を忘れることはありません」と感謝を述べてくれた。改めて研修に関わっていただいた指導者及び関係者の皆様、協働パートナーであるJICA関西の皆様がこの場を借りてお礼申し上げたい。



# REPORT :

## 短期研修生報告

「何事もまず手で出来る事をやってみます。」

JICA草の根技術協力事業により、2023年2月6日から3月2日まで来日したエラさん（タベ村組合長）。日本で学んだ牛肥育と繁殖、堆肥作りをインドネシアでも息子のプディさんとともに取り組みます。

演 宏子=訳



エラさん（左）とプディさん、研修先の内子町にて



力石牧場

牛を200頭育てている力石牧場では牛の肥育について学んだ。力石牧場が肥育について気を付けていることはまず牧場の場所と気候である。牛舎は15度に保つのが良く、夏場は扇風機を使う。乳牛は良い乳のため暑さは大敵である。牛が快適に過ごし、よく眠れるよう配慮する。おがくずは少なくとも月に1度は交換する。飼料は成長がアメリカからの輸入が100%で、乾燥した藁と草を与える。早く、利益を大きく、市場に出し易い牛を育てるには牛の種も大切な要素である。

堆肥に関しては牛糞の全てが発酵処理され堆肥として販売される。年間相当な売り上げがある事に驚いた。捨てる牛糞がお金を生み出す。



木村牧場

篠山ロータリー例会参加後、近くの木村牧場訪問。学びは牛の飼料は必ず乾燥させる事。インドネシアでは生の草をそのまま食べさせるが、それでは下痢しやすく栄養は吸収されない。乾燥飼料は胃に長く留まり、栄養も吸収され易い。村でも今後少しずつ乾燥飼料に変えていく。トウモロコシと大豆も餌に混ぜる。木村牧場でも堆肥を作って販売、6か月で売れる事が出来る。



篠山ロータリークラブの例会に参加したエラさん（中央）



谷口牧場

繁殖農家の谷口牧場訪問。30頭の成牛と10頭の仔牛を飼育中。人工授精に使われる精子は国に管理されており、国から協同組合経由で畜産農家が購入する。精子は1頭あたり0.5ccを3本使用する。

仔牛の飼育はまず体を温める。生後1週間から粉にしたトウモロコシを与える。にんにくなどの栄養補助食品も与える。生後9か月で市場に出す売り値のうち、経費が約半分なので利益が半分近くも出ることになる。この割合の利益がインドネシアで出れば素晴らしい。谷口牧場では全ての飼料を手作りしているのもすごい事だと感心した。



淡路競り市

淡路競り市はこの日但馬牛のみの競り市であった。当日320頭が競りにかけられた。牛は全て9か月の牛で、行儀よく順番に並ぶ。まずは健康状態が獣医によってチェックされ、身長体重も測定される。広場に買主たちが待機し、手に持った機械で自分の決めた金額まで押していくと1番高値を付けた人が落札する。驚いたのはそれぞれの牛に血統の保証書があること。それを見れば何代も前の牛までが遡って見られる。

価格は40万円から100万円までであったが、全ては血統によって値がつくようだ。このシステムですごいと思った事は牛がすべて売り切れる事。売主買主どちらにも利益がある事。牛が市場に入ってから連れ帰られるまで無駄がなく、騙されることがない事。このシステムは私が見た中でも過去最高のシステムであり、インドネシアにも欲しいシステムである。



コープこうべ・協同学苑

ここでは協同組合の歴史について詳しく学んだ。協同組合に於いて大切な事は、1人1票という民主主義、開かれた組合である事、組合員による議論、高い品質、組合員による商品の勉強、政治と宗教のバランスなど。常に地域や平和を意識する組合をタベ村でも目指したい。



農林水産技術総合センター

ここでは200頭の但馬牛が飼育されている。ここでの学びは特に人工授精の精子の事である。驚いたことに精子の段階から雌雄が分けられる研究がされている事。乳牛のためには雌の精子が選ばれる。いい肉質にするにはビタミンAが欠かせない。450kgから500kgの牛が肉質がいい。脂肪が細かい肉が良い。精子は1週間に2度採取され、卵黄と混ぜられ、液体窒素で凍結され永久に保存できる。このシステムは50年も続いているようだ。

### 研修を終えて

インドネシアに帰国後は息子のプディと協働し、日本で学んだ牛肥育と繁殖、そして堆肥作りをやってみたいと思います。何もかも機械化された日本のように出来ませんが、まずは牛を3頭から5頭飼う事から始めます。何事もまず手で出来る事をやってみます。そして村にも日本のような牛肥育のシステムを作りたいです。

最後に、私と息子からJICAが与えて下さったすべての事に感謝を申し上げます。見るもの聞くものすべてが一生に一度のことで、人生でこんな経験は2度と出来ないでしょう。ありがとう以外の言葉が見つかりません。お金があったとしても出来る事ではありません。JICAとPHDはもう私の家族のようです。この経験を決して忘れることはありません。

インドネシアに「大きな山を抱きしめたいが私の手は届かない」という謗がありますが、今の私はまさにそんな気持ちです。ありがとうございました。

### エラさん研修スケジュール

- 2/6 来日、PHD協会オリエンテーション
- 2/7 PHD協会理事会
- 2/8 えひめグローバルネットワーク
- 2/9 納堂邦弘さん、力石牧場、道の駅小田の郷せせらぎ
- 2/10 道の駅内子フレッシュパークからり
- 2/11 別府市竹細工伝統工芸館
- 2/13 アクションプラン研修①
- 2/14 アクションプラン研修②
- 2/15 篠山ロータリークラブ、木村牧場
- 2/16 兵庫県西播磨県民局光都農業改良普及センター、ハイクオリティミルク農業協同組合林牧場、真柴牧場
- 2/17 神戸モスク
- 2/18 淡路畜産農業協同組合連合会競り市
- 2/20 谷口牧場
- 2/21 但馬農業高校、但馬食肉センター、兵庫県立農林水産技術総合センター
- 2/23 北九州市環境ミュージアム
- 2/24 祝町小学校、北九州アジアを考える会、岩国みなみワイズメンズクラブ
- 2/25 広島平和記念資料館、袋町小学校平和資料館、一秦治さん、原爆ドーム、平和記念公園
- 2/27 コープこうべ協同学苑
- 2/28 レポート作成
- 3/1 JICA関西にて研修報告
- 3/2 帰国



雪の降り積もる但馬研修の日、囲炉裏であたたまるエラさん



# REPORT :

## 2022年度の居住支援を振り返って

佐久間 隆 = 文



技能実習生の帰国支援

2022年度、PHD協会は166名の外国人の方々に支援を届けてきました。PHD協会が神戸市長田区で運営するシェアハウスを利用した居住支援と、兵庫県内のさまざまな地域にお住まいの外国人の方にアウトリーチした相談支援を二本の柱として活動を行いました。166名のみなさんそれぞれが違う生活状況で、ニーズも異なるため、PHDが行う支援も、一回限りの物資提供から、毎月の定期的な面談や複数回に渡る同行支援まで、その頻度や内容も多岐に渡りました。

### 1. シェアハウスを利用した居住支援

PHD協会は、2020年10月に神戸市長田区に開設した「国際協力・交流シェアハウス みんなのいえ」を利用して、住居の確保に困難を抱える外国人の方々の受け入れを行ってきました。2022年度も、劣悪な労働環境から逃れてきた技能実習生や、ミャンマー出身で出身国に帰れなくなり特別な在留資格を得た方、難民認定を受けて入管施設から出所してきたばかりの方など、いずれも住む場所がない6名の方を受け入れました。

シェアハウスの入居者には、無料もしくは安価で居住スペースを提供するのに加えて、必要に応じて食料や生活物資の提供、役所への同行や就労支援を行いました。6名のうち5名は、別の実習先や転居先を見つけられたり、帰国されたりして、シェアハウスを旅立たれました。残り1名の方は、3月末のシェア

ハウスからの自立に向けて、現在、賃貸契約や引越し準備と一緒に進めています。

シェアハウスにお住まいの方々は特に困窮度が高い方が多く、PHDによる支援の関わりも深い場合が多いです。シェアハウスを出た後に、少しでも安定した生活が送れるように、再び生活困窮に陥らないように、就労支援や地域の団体との連携も視野に入れて活動を行っています。

### 2. アウトリーチ型の生活相談支援

PHD協会は2020年度から、神戸市内で生活されている留学生などを中心に、食料や生活物資を届ける活動を行ってきました。2022年度は、120名を超えるウクライナ人が兵庫県の各地域に避難されてきたこともあり、アウトリーチ活動を強化して、支援対象者の住む様々な地域を訪れて支援を実施しました。ウクライナ避難民の場合も、地理的な問題で行政によるサービスへのアクセスが限られている方も多くみられ、PHD協会では「行政ではアプローチできていない方々に支援を届ける」ことを意識して活動しました。2022年度は160名の方々に支援を届け（うち約半分がウクライナ避難民）、活動エリアも神戸市内を中心に、西宮市、尼崎市、川西市、淡路市、姫路市、大阪市も訪れて支援を届けました。

とくに避難してきたばかりの方や仮放免中などの理由で収



相談者の自宅での聞き取りの様子(右はPHD職員)

入がない/足りない方は、食料や生活物資のニーズが高く、PHD協会の連携団体や企業またサポーターの皆様から頂いた物資をお渡ししました。特に困窮度や緊急度が高い場合には、助成金を使って、買い物に同行した物資の購入支援も行いました。

生活に関するご相談は、避難した当初からある程度生活が落ち着いた後も、内容を変えつつ継続して受けとり、対応してきました。具体的には、引越しの手伝い・家具の設置、役所への同行、幼稚園や日本語学校の情報提供、給付金やコロナ予防接種等の申請サポート、病院・歯科医院での診察同行、転居探しなど行いました。就労に関する相談も多く、PHD協会では、2021年に登録した無料職業紹介業も活かして就労支援を行いました。PHD協会の連携企業や神戸商工会議所などからご紹介頂いた企業に繋がせて頂いて、15名の方が長期的な就労先を見つけられました。

また、神戸市北区の比較的遠隔地にある市営住宅にお住まいのウクライナ避難民を対象に、日本語教室を週2回のペースで開講して、18名（延べ310名・2月末時点）の方が参加されました。

2022年は、ウクライナ避難民の方々の状況がメディアでも積極的に取り上げられ、日本で生活されている避難民・難民の方々に対する社会的な関心が高まった一年でした。支援の現場においても、行政や企業から、これまで前例がないほどの手厚い支

ウクライナ避難民への物資提供(中央はPHD職員)



援がウクライナ避難民の方々に提供されました。その一方で、高まった関心や支援の輪が、ウクライナ避難民以外の困窮する外国人にはまだまだ広がっていない状況にあります。PHD協会は、今後もウクライナ避難民の方々への支援は継続しつつ、それ以外の方々にも社会的な関心や支援の輪が広がっていくことを目指して活動していきたいと考えています。

2022年度、PHD協会の居住支援は、令和4年度住宅市場整備推進等事業費補助金、赤い羽根共同募金「居場所を失った人への緊急活動応援助成」、日本財団「ウクライナ避難民支援 助成プログラム」、神戸まちづくり六甲アイランド基金、日本労働組合総連合会「愛のキャンパ中央助成」の助成を受けて実施されました。

赤い羽根共同募金

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

神戸まちづくり六甲アイランド基金

連合 愛のキャンパ中央助成



宇宙船地球号で暮らす  
-多文化共生してる?-



韓国・漢江をサイクリング中の筆者 (中央・2013年9月)

門野 隆弘  
PHD協会 理事  
サンテレビジョン 代表取締役社長

社会人になる前に、インドを訪ねました。初めての海外でした。聖地・ベナレスを歩いていると、物乞いが集まってきました。彼らの多くは足がなかったり、片手を失っていたりします。物乞いのために切断したとの説もありました。ガンジス川のほとりでは、遺体の火葬が行われています。生と死が隣り合わせにあることを目の当たりにした旅でした。

30歳をすぎたところに3年余り、シンガポールに駐在しました。その間、PHD協会の総主事だった故草地賢一さんと一緒に、しばしばインドネシアやマレーシア・ボルネオ島の村々を訪ねました。人を育て、自立できる力を付けることにつながる支援の大切さを教えられました。

シンガポールには中国系、マレー系、インド系などの国民がおり、公営団地でも多民族の住人が混在しています。人種はもちろん、祭り、食べ物などの文化や言語の多様性が融合した国の在り方には目を見張ります。

友人の在日コリアンに勧められ、この15年ほどの間にしばしば済州島やソウル周辺の漢江をサイクリングしました。自転車で走っていると、等身大の暮らしが見えてきます。地域の名店でおいしい料理を食べ、焼酎やマッコリを味わいながら、人々と交わる。これほど異文化理解に役立つことはないような気がします。

退職の挨拶



佐久間 (右から2人目) と中島 (右から3人目)

居住支援担当 佐久間 隆

私は、昨年5月よりPHD協会で居住支援を担当させて頂きました。ウクライナ避難民の方々を中心に、生活にお困りの外国人のみなさんを支える活動に携わらせて頂きました。短い期間になりましたが、当事者のみなさんに直接お会いして、お話を伺い、必要な支援をお届けするという、やりがいを感じられる活動に参加させて頂くことができました。また活動を通して、日本で生活されている外国人の方々が直面する困難について学ぶと共に、みなさんの力強さや優しさに私自身励まされる事が多くありました。このような機会を提供して下さいましたPHD協会とサポーターの皆様に感謝いたします。今後も国内外での支援活動に携わっていく所存です。どうもありがとうございました。

広報・啓発担当 中島 麻

2020年春にPHD協会に入職して、あっという間の3年が経ちました。広報・啓発担当として、一から十まで広報誌を作成するという経験ができたこと、とてもよかったです。

一方で、誰かのためにをかけた活動は相手やその手法にフォーカスがいき、そのことばかりで独りよがりになりやすいような気がしています。私は、自分自身の心を大切にすることで、周りの人たちを大切にすることができ、平和へと繋がるという考えがあります。自分から身近な家族、友人、同僚へと輪が広がっていく。自分自身に向き合うことは難しいことではありますが、自分の感情や気持ちに寄り添い、自分に正直に生きることの大切さを、私はこの3年間で再認識することができました。これからも、自分と向き合い、自分の考えに責任を持って、言行一致、生きてまいります。PHD協会で働くご縁をいただいたこと、感謝申し上げます。

PHD 活動紹介 2022年11月～2023年2月

- |   |                 |   |                |                                      |
|---|-----------------|---|----------------|--------------------------------------|
| <p>11月</p> <p>1日 (株)メロディ 訪問</p> <p>2日 職員研修：メタファシリテーション④ 講師：中田豊一氏</p> <p>3日 たつのインタビュー</p> <p>4日 西宮市すまいづくり推進課 来訪</p> <p>8日 明石城西高等学校 講演<br/>ひょうご・みんなで支え合い基金 運営委員会</p> <p>9日 在留資格勉強会<br/>国際高等学校 講演<br/>三田市国際交流協会 座談会<br/>【緊急開催】「寄付規制法案(仮称)」を考える</p> <p>10日 NGO相談員ランチミーティング</p> <p>12日 ウクライナ・バレエ団コンサート ～13日</p> <p>14日 NGO神戸外国人救援ネット 運営委員会<br/>神戸YMCA 国際奨学生 面接</p> <p>15日 日本財団 ウクライナ避難民支援ウェビナー<br/>HYOMIC 幹事会</p> <p>16日 篠山ロータリークラブ 例会<br/>神戸YMCA学院：NGO相談員</p> <p>17日 高砂市立阿弥陀小学校4年生 交流会<br/>大阪信愛学院 講演：NGO相談員</p> <p>18日 サニーリハトレセンター 訪問</p> <p>21日 全日本自動車産業労働組合総連合会 寄贈式<br/>日本労働組合総連合会 訪問<br/>ロータリー米山記念奨学会 訪問</p> <p>22日 NGO神戸外国人救援ネット 設立総会</p> <p>23日 JSURPオンライン相談会</p> <p>24日 明石清水高校：NGO相談員<br/>One World Festival for Youth 運営委員会</p> <p>25日 NGO-JICA勉強会<br/>JICA研修①<br/>浜本裕子さんを偲ぶ会</p> <p>26日 加東市国際交流協会 日本語スピーチコンテスト</p> <p>27日 HYO GON 運営委員会</p> <p>28日 NGO-JICA勉強会</p> <p>29日 PL学園 講演：NGO相談員</p> <p>30日 地域で暮らす「外国人」を支えるということ 講演会</p> <p>12月</p> <p>2日 定例スタッフ会議<br/>JICA研修②モニタリング評価<br/>奈良育英高等学校 講演：NGO相談員<br/>One World Festival for Youth 実行委員会 ～3日</p> <p>5日 JP-MIRAI事業学習会</p> <p>6日 NGO相談員会議 ～7日<br/>PHD協会ビジョンを語る会</p> <p>8日 兵庫ユニセフ協会 評議員会</p> <p>10日 One World Festival for Youth 実行委員会 ～11日</p> <p>11日 神戸YMCA街頭募金活動</p> <p>13日 小林税理士 往査<br/>草の根技術協力事業</p> <p>14日 JICA四国・NGO等提案型事業「多文化共生型の減災社会づくり」での講演<br/>セミナー「わたしたちの難民問題2022 vol.23」<br/>2023年度事業計画 会議</p> <p>17日 ひょうご市民活動協議会合宿 ～18日<br/>One World Festival for Youth 実行委員会</p> | <p>PL学園での講演</p> | <p>18日 One World Festival for Youth</p> <p>19日 ウクライナ避難民向けの法律相談</p> <p>20日 ミャンマーユニティ説明会</p> <p>21日 篠山ロータリークラブ クリスマス例会</p> <p>22日 定例スタッフ会議</p> <p>26日 NGO神戸外国人救援ネット 議決会</p> <p>27日 ハローワーク神戸 来訪</p> <p>28日 サニーリハトレセンター 訪問</p> <p>29日 中野宗嗣さん宅 餅つき 参加</p> <p>1月</p> <p>5日 臨時スタッフ会議</p> <p>9日 「難民と神戸」を学ぶ講演とまちあるき～神戸のベトナム難民へ<br/>さんだ多文化ふくふくネットワーク会議<br/>神戸市シルバーカレッジ ジョイラックデー</p> <p>15日 One World Festival for Youth 高校生実行委員会</p> <p>16日 NGO神戸外国人救援ネット 運営委員会<br/>HYOMIC 幹事会</p> <p>20日 JANIC会員交流会<br/>職員研修：「ワタシタチハニゲンダ」視聴</p> <p>23日 コープこうべ第一地区総代研修会 ウクライナ避難民 講演<br/>いたみ杉の子 面談</p> <p>25日 生活協同組合コープこうべ 第3地区本部 本田さん 来訪<br/>近畿経済産業局 中小企業政策調査</p> <p>27日 梅光学院大学 宋先生 来訪<br/>洛星中学校 収録</p> <p>30日 仮想通貨：支援の現場への活用事例と展望</p> <p>31日 定例スタッフ会議<br/>HYOGON 賛詞交歓会</p> <p>2月</p> <p>1日 六甲ウィメンズハウス 運営委員会<br/>株式会社メロディ 訪問</p> <p>3日 奈良育英西高校 インタビュー</p> <p>4日 One World Festival for Youth：NGO相談員 ～5日<br/>篠山ナマステ会 市民講座 講演</p> <p>6日 短期研修生 エラさん 来日<br/>ひょうご国際交流団体連絡協議会 西播磨地域意見交換会</p> <p>7日 PHD協会 運営協力委員会・評議員会・理事会</p> <p>8日 神戸YMCA大会 実行委員会<br/>さんだ多文化ふくふくネットワーク会議<br/>えひめグローバルネットワーク 訪問</p> <p>9日 HYO GON 運営委員会</p> <p>10日 One World Festival for Youth 運営委員会</p> <p>13日 ひょうご市民活動応援基金 選考委員会<br/>ひょうご国際交流団体連絡協議会 丹波・阪神地域意見交換会<br/>NGO神戸外国人救援ネット 理事会</p> <p>14日 神戸ワイズメンズクラブ 例会</p> <p>15日 篠山ロータリークラブ 例会</p> <p>18日 加東市連合婦人会 交流会</p> <p>19日 ガールスカウト市協議会・講座講演</p> <p>20日 レインボースクール コープこうべ三田西<br/>神戸東灘ロータリークラブ 来訪</p> <p>21日 豊岡総合高校 岩本さん 来訪</p> <p>22日 神戸市シルバーカレッジ国際交友の会 来訪<br/>NGO神戸外国人救援ネット 臨時理事会</p> <p>28日 ひょうご国際交流団体連絡協議会 但馬地域意見交換会</p> | <p>KICC議決会</p> | <p>神戸市シルバーカレッジ、<br/>ジョイラックデーでの販売</p> |
|---|-----------------|---|----------------|--------------------------------------|



# PHD News

## 2023年度 来日報告会のご案内

2023年3月下旬に来日する39期研修生たちの来日報告会を行う予定です。一年の学びへの抱負、村での生活の様子などを発表いたします。お誘いあわせの上、ご参加ください。

日時：2023年6月3日(土) 時間未定  
場所：神戸市内予定。(お手数ですが、PHD協会事務局までお問い合わせください。)  
Tel：078-414-7750 (PHD協会事務局)  
Email:info@phd-kobe.org

## 2023年度第39期研修生

2023年度研修生は、例年よりも少し早い3月23日に来日します。3年間来日が叶わなかったトゥートゥーウェイさんの来日もついに叶い、やっと研修を受けることができます。皆さま、助産師をしているアギーさんと共に一年間どうぞよろしくお願いたします。



アギーさん  
年齢：24歳 (1999/3/23 生)  
出身地域：インドネシア 西スマトラ州 タベ村  
宗教：イスラム教  
研修テーマ：助産、保健衛生



トゥートゥーウェイさん  
年齢：40歳 (1983/3/19 生)  
出身地域：ミャンマー マンダレー地方域  
宗教：仏教  
研修テーマ：教育、保健衛生

## 新年度へ向けて ○月×日のPHD協会

**三宅** 昨年の入職時に「これからは仲間」と皆から言われたことが嬉しかった。今後は私が迎える番。

**中村** 年度末の業務に忙殺される日々。新年度は新しいことにチャレンジして、何より楽しく仕事ができればと思う。

**坂西** 4年振りとなるミャンマーからの研修生が来日できるかドキドキ。執筆時点では不明。結果は果たして？

**濱** インドネシアからの研修生、なんと来日日が断食開始日！2年連続で当たり。あれこれ慌てる一年が始まる。

以上、順番決めアプリが決めた順

## ◆ 新聞掲載

(2022年11月～2023年2月)

2022/12/20

神戸新聞・居住支援事業について

2023/1/18

神戸新聞・居住支援事業について

2023/2/5

朝日新聞宮城版・居住支援事業について

2023/2/25

神戸新聞・ウクライナ避難民支援について

## 集めています！ PHD 物品収集部

使用済み切手、書き損じハガキ、未使用切手、未使用ハガキはPHD協会の活動を支える大きな活動資金となります。ご自宅、職場、学校などで集めて当会へお送りください。換金し、日々の郵送料として大切に活用いたします。



物品の受領書については、希望者の方にのみ発行しております。

## ◆ 未使用切手・ハガキ

当会の会報、ご案内などの各種発送物の郵送料となります。

## ◆ 書き損じハガキ

新しい切手・ハガキに交換後、当会からの案内など各種発送物の郵送料となります。

## ◆ 使用済み切手・外国貨幣

1000円/kgで買い取っていただき、研修生の招聘・研修などの活動費となります。

## ◆ 未使用テレホンカード

当会の電話代にあてさせていただきます。